

第4学年社会科学習指導案

4年1組 指導者 原田圭介

単元 未来に残したい！わたしたちの瑠璃光寺五重塔

1 本単元で子どもが創出と受容、転移を行う各教科等の本質（見方・考え方）

社会的事象と自分たちとの関わり方について考えること

2 本単元で、各教科等の本質（見方・考え方）の創出と受容、転移を行っている子どもの姿

本学級の子どもたちは、廃棄物を処理する事業や飲料水を供給する事業、自然災害から人々を守る活動の様子について考える学習に取り組んできた。このような子どもたちが、文化財の保存や継承の取組を基に、社会的事象と自分たちとの関わり方について考える学習に取り組む。

古くから伝わる文化財である瑠璃光寺五重塔と自分たちとの関わり方について考えることは難しい。廃棄物や飲料水、自然災害は、自分たちの生活に直接影響を及ぼす社会的事象であるため、子どもたちは切実感や必要感をもって自分たちの関わり方について考えることができた。一方、瑠璃光寺五重塔は自分たちの生活に直接影響を及ぼす社会的事象ではない。だからこそ、瑠璃光寺五重塔と自分たちとの関わり方、つまり、瑠璃光寺五重塔を残すために自分たちにできることについて考えることは、今後どのような社会的事象に出会っても、自分たちの関わり方について考えていくことにつながるであろう。子どもたちは、瑠璃光寺五重塔の保存や継承の取組の困難さや、未来への願いを基に、瑠璃光寺五重塔を残していきたいという思いをもつ（創出）。そして、瑠璃光寺五重塔を残すために自分たちにできることについて考えていく（受容）。さらに、他の社会的事象でも、自分たちの関わり方について考えるようになる（転移）。こうした学びの積み重ねが、学習したことを社会生活に生かそうとする姿につながるのである。

そこで、以下のような支援を具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 瑠璃光寺五重塔の保存や継承に携わる人々から話を聞く場を設定する。そうすることで、保存や継承の取組を共感的に捉え、自分なりの思いをもつことができるようにする。【創】
- 自分たちにできることについて考えることは、誰のためになるのかを問う。そうすることで、自分たちの関わり方について考えるよさに気付くことができるようにする。【受】
- 古い年中行事を残すために、自分たちにできることについて話し合う場を設定することで、他の社会的事象でも自分たちの関わり方について考えることができるようにする。【転】

3 本単元の目標

- 瑠璃光寺五重塔の保存や継承への取組について調べることをとおして、瑠璃光寺五重塔と自分たちとの関わり方について考えることができるようにする。
- 社会的事象と自分たちとの関わり方について考えることをとおして、自分たちにできることを考えたり、実践したりしようとすることができるようにする。

4 本単元における評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○瑠璃光寺五重塔の保存や継承への取組や、そこに込められた人々の願いを理解している。	○瑠璃光寺五重塔と自分たちとの関わり方について考え、表現している。	○瑠璃光寺五重塔の保存や継承への取組について、意欲的に調べようとしている。

5 指導計画（全9時間）

第1次 瑠璃光寺五重塔についての気付きや疑問、調べたことを交流する（2時間）

第2次 瑠璃光寺五重塔と自分たちとの関わり方について考える（6時間）【本時6／6】

第3次 古い年中行事と自分たちとの関わり方について考える（1時間）

6 本時案 【令和2年12月3日 10:20~11:05 4年1組教室】

- (1) ねらい 瑠璃光寺五重塔を残していくために、自分たちにできることについて考えることをとおして、瑠璃光寺五重塔と自分たちとの関わり方について考えるよさを自覚することができるようにする。
- (2) 学習過程 ※一重下線は創出、二重下線は受容、破線は転移に対応する子どもの意識

学習活動・学習内容	子どもの意識	○教師の支援
1 瑠璃光寺五重塔を残していくために、自分たちにできることについて考える。(30分)	<ul style="list-style-type: none"> 瑠璃光寺五重塔に行って、残す取組をしている人たちから話を聞くことができたね。 A 瑠璃光寺五重塔を残していくためには、難しい問題があることを教えてもらったよ。 B <u>これから瑠璃光寺五重塔を残していきたいな。自分たちにできることを考えよう。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○瑠璃光寺五重塔を見学した際の写真を提示する。そうすることで、瑠璃光寺五重塔を残していくために自分なりの思いをもつことができるようにする。【創】 ○自分たちにできることについて考えることは、誰のためになるのかを問う。そうすることで、自分たちの関わり方について考えるよさに気付くことができるようにする。【受】 ○自分たちにできることと、瑠璃光寺五重塔の保存や継承を願う人たちとを関連付けて板書上に表すことで、瑠璃光寺五重塔と自分たちとの関わり方について考えるよさを自覚することができるようにする。【受】
瑠璃光寺五重塔を残していくために、自分たちにできることは何だろう		
<ul style="list-style-type: none"> 瑠璃光寺五重塔の保存や継承の取組 自分たちにできることについて考えること 	<ul style="list-style-type: none"> A 自分たちにできることってあるのかな。 ・「瑠璃光寺五重塔をもっと知ってもらうことが残すことにつながる」と聞いたよ。 A そういうことか。自分たちにもできることがありそうぞ。 B 瑠璃光寺五重塔を残す取組を家族に知ってもらうことならぼくにもできるよ。 A みせてもらった檜皮葺の伝統的な技術のすばらしさを家族に知ってもらいたいな。 ・少しだけど、募金することならできるよ。お金の問題があると聞いたからね。 ・わたしは、家族に募金に協力するように声をかけてみようかな。 	
自分たちにできることを考えることは、誰のためになるのかな。		
2 瑠璃光寺五重塔と自分たちとの関わり方について考える。(15分)	<ul style="list-style-type: none"> 瑠璃光寺五重塔を残す取組をしている人たちのためになるのだと思うよ。 ・それだけかな。瑠璃光寺五重塔が残ることを願う山口市民のためにもなるよ。 B 自分たちのためにもなるのではないかな。自分たちも瑠璃光寺五重塔が残ることを願う山口市民だからね。 A <u>自分たちにできることを考えることは、自分たちのためになることなのだね。</u> 	

(3) 板書計画

瑠璃光寺五重塔で撮影した集合写真

写真
おべんじょう
スケッチ
お話
楽しかった
勉強しなかった
好きになった

住職さん

瑠璃光寺

信じて残す
守りたい
好き

瑠璃光寺五重塔を残していくために、自分たちにできることは何だろう。

- 1001 - もっと知ってもらいたい
- 1002 - 家族
- 1003 - 兄弟
- 1004 - 友だち
- 1005 - 下宿生
- 1006 - そろじのボランティア
- 1007 - ばい金
- 1008 - 家族や友だちと行く
- 1009 - ずっと好きでいる
- 1010 - わたしは

話し
ひわぶき
守る取組
昔のできごと
国宝、三塔

好き
残したい
ほり愛

山口市民
かん光客
未来の人たち
自分たち

- 1011 自分ができること
- 1012 自分にかえてくる
- 1013 自分ができることがあつてよかった
- 1014 ほかにもしありそう
- 1015 突っこいやってみたい
- 1016 みんなのために、いることかかわり